

# 木育 かわら版

## MOKUIKU

知ろう、使おう、広げよう、みやざきの木

Vol. 14



木に触れて、  
木と遊び、  
木を学ぶ

### Contents

Page1	地域サポーター養成講座
Page2	県木青会木育研修
Page3	宮崎工業高校林業・木材産業見学ツアー
Page4	保育園の取り組み

### みやざき木育プログラム

## 地域サポーター養成講座

日 時：令和2年9月26日(土)  
 場 所：四季の森こども園（日南市）  
 講 師：吉田 理恵氏（ぎふ木育推進員・NPOmusubi 代表  
 ・ぎふ木育協会副会長）

みやざき木育プログラム・・・  
 宮崎県では、宮崎固有の文化や豊かな森林・木材資源をベースとした宮崎らしい木育プログラムの開発に取り組んでいます。

木育プログラムのモデル園として認定されている、四季の森こども園（日南市）とめぐみ保育園（宮崎市）において、プログラム実施の際、サポートを行ってくれる地域の方を対象に、研修会を行いました。

### ▶ 年少児プログラム「森の雫」

午前中は、実際にプログラムを体験する中で、森と水の関わりを改めて学びながら「森の雫」を皆さんで作りました。磨き方のコツなどを確認しながら楽しく仕上げていきました。



森と海の関係の話



森の雫を磨きます

森の雫（もりのしずく）  
 オビシギを素材とした教材で、森と水の関わりを現す「雫」をモチーフとした形となっています。また、親子のワークショップで、それぞれペンダントを作った後の板にはハート（心）が現れる仕掛けとなっています。



森の雫

### ▶ 見本 / 吉田さん考案のプログラム「ヒノキのお魚づくり」



ヒノキのお魚

午後は、講師の吉田さんによる、岐阜県で実施しているプログラムを体験させていただきました。本来は夏のプログラムで、ひのきの特徴である「水に強い」ことを活かしたプログラムです。出来上がったお魚は、お風呂に浮かべてヒノキ風呂が楽しめます。道具は、のこぎりを使うので、のこぎりを挽く時の体の使い方をレクチャーしてもらった後、園庭に出て、実際にのこぎりを挽き、お魚の形をした棒から薄い板を作ってそれを磨いて「ヒノキのお魚」を仕上げました。



のこぎり挽きの見本



体験

### モデル園 実施

日 時：令和2年11月6日(金)・7日(土)  
 場 所：社会福祉法人 森と風の郷 四季の森こども園  
 社会福祉法人 恵浄福祉会 めぐみ保育園

両園で親子参観として実施された「森の雫」プログラム。地域サポーターの方にとって初めてのサポートでしたが、体験したことをそのままアドバイスに活かしたり、保護者と会話したり、終始和やかな雰囲気の中で実施されました。"子どもは地域の宝、の言葉通り、保護者だけではなく地域の方々にも見守られ

四季の森こども園

めぐみ保育園



育って欲しいという願いも込め、これから始まる3年間のプログラムを通じて、園と地域が繋がりがり、子どもたちの心が健やかに育まれることを願っています。



企業を対象とした木育研修の実施

宮崎県木材青壮年会連合会木育研修

講師：松井 勲尚氏 (木育実践研修者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授)
吉田 理恵氏 (ぎふ木育推進員・NPOmusubi代表・ぎふ木育協会副会長)
日時：令和2年9月25日(金) 18:00～20:30
場所：ホテルメリージュ 鳳凰の間
参加者数：25名

9月に都城木青会の勉強会で行った木育研修を、今回は対象を宮崎県内の木青会に広げ実施しました。前回同様、講師に松井勲尚氏、吉田理恵氏を迎え、木育を手段とした企業としてのSDGsの視点の重要性などについてお話ししました。



吉田 理恵氏

木育カフェ テーマ1「宮崎県内の好きな場所は？」
テーマ2「最近のマイブーム」
テーマ3「この仕事をして楽しいこと」

スギ活用推進室長の挨拶から始まった今回の研修会。まずは、吉田先生による木育カフェが行われました。テーマは3つ。それぞれのテーブルで交流を図りながら、「森の雫」磨きを行いました。



挨拶 宮崎県山村・木材振興課 室長 福田 芳光



松井 勲尚氏

木育講演会 演題：日本のひなた 2020-2040 木と人の命を育むためのマネジメントを目指して
一子どもから大人までの一気通貫した人づくりのために捉え直しの視点一

「木育」を手段として、より持続可能な社会にするためにどのように取り組めばいいのか、という意味でこのようなタイトルにしました。

県では、森林・林業・木材・環境について分かりやすく県民の皆様にお伝えする木育に取り組んでいるが、円滑に進めるためには多様な関係者の連携・協力が重要と考えている。とりわけ、林業・木材業界の方々には不可欠ではないかと思う。このような会議を通じて、木育に対する知識と教養を深めて頂き、産業界と認識を共有しながら、より一層の木育を図って行きたい。

➤ 気候変動

今年の猛暑、サンマの不漁、最上川の氾濫、世界に目を向けると大規模な山火事など、今までにない災害が世界中で起きている。これは、気候変動の影響で猛暑や台風が起り、海水温の上昇が起きている。皆さんは、自然資源を利用して生業としているので他人ごとではないと感じていると思う。従業員の皆さんを食べさせないといけないなど目の前の事も重要であると同時に、大きな人類の危機に自分たちが立ち向かっているという誇りを持って欲しい。

➤ with コロナ

with コロナ、と言われるように、今後も付き合っていくといけない人類の課題である。私は「丁寧な暮らし」が求められていると感じる。丁寧に暮らし、丁寧に仕事と向き合うには、時間がかかる。24時間の中で何を残し何を削るのか？その選択のタイミングである。木青会には、「新しい生活様式」として、生活文化の視点も発信してほしいと願う。また、今までにない共有と連帯が多様性を生んでいく時代だ。

➤ 強みは何か？

皆さんの強みは？木青会の強みは？強みを自覚するというのが、今最も重要かもしれない。ドラッカーがいうように「強みによってのみ成果をあげる。弱みはいくら強化しても平凡になることさえ疑わしい。」「強みは当然とできるもので気づかない」

会社が持続可能になっていくために、どのような人材を雇用するか、どんなチカラを持った人材が入ると持続可能になるか、大事なことは「協働、する、ということ。共に働いている仲間の強みは何か。この強みをお互いに共有できるかが、生き残りの勝負だと思う。

➤ CSV (共通価値の創造)

企業の社会貢献といえば「CSR、(企業の社会的責任)」という考え方が基本だったが、2011年にマイケルポーター氏が提唱したCSV(共通価値の創造)は、企業の事業活動がそのまま社会的な課題を解決する、分かりやすく言うと、儲けていることがそのまま環境や社会のためになっている、ということ。

例えば、皆さんがおこなっている木工教室。この木工教室は何のためにやっているのか？県木青会は、どんな「願い」をもって臨んでいるのか？木工教室は教育「人づくり」である。教育と皆さんの産業との共通価値を探ることが大事だ。木工教室に参加してくれた子どもたちが、皆さんの会社の未来の担い手になることも鑑み、質の高い教育の提供を願いたいと思う。園児たちが入社するまで早く12年後の2032年。木という「生きもの」に向き合う皆さんだからこそ「待つ、ことができるのではないのでしょうか・・・」

➤ 捉え直し

今回は「捉え直し」。今までやってきたことをどうやって捉え直しするか？木青会として会社として強みを見落とししていないか？見方を変え、枠組みを外し、今立ち止まり「強み、誇り、」を自覚することが大事だ。一度、宮崎の林産業の歴史(ルーツ)を振り返っては如何だろう。



➤ 日本的 SDGs

SDGs(持続可能な開発目標)とは2015年国連のサミットで決められた国際社会共通の目標で、17の目標が掲げられているが、日本人として重要なのは「人間も自然の一部である」という思想である。これを踏まえることが、「日本的なSDGs」に繋がると思う。会社として、県木青会として何に取り組めば良いのかということを一早く明確にしていくことが重要だ。県木青会への願いとして以下5つの目標は如何だろうか？12と15は勿論だが、特に4と11を掲げてほしい。また北から南まで海に面した宮崎県だからこそ14も意識してほしい。

[県木青会への願いとして・・・]

- 4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任つかう責任 14 海の豊かさを守ろう
15 陸の豊かさを守ろう

お礼の言葉 宮崎県木材青壮年会連合会 会長 家村 健太

木青会で毎年木育イベントを行っているが、木についての歴史や感謝が足りない部分が多々あり、自身も勉強しないといけないと思った。また、木育と産業の共通価値を探したい。自分たちの強みも見つけていきたい。



## 宮崎工業高校林業・木材産業見学ツアー

日時：令和2年9月29日(火)

視察先：松岡林産・宮崎県木材利用技術センター  
都城木材株式会社・ランバー宮崎協同組合

参加者：インテリア科2年生 41名



松岡林産



宮崎市清武町本田野国有林での伐採現場の見学。伐採現場で使用される4種の機械（グラブ、フェラバンチャー、プロセッサ、フォワーダ）の機能を教えてもらいながら、実際に伐採される場所を見学しました。松岡社長からは、地球温暖化に木材の使用が大切になっていることや、木材環境についての生物の寿命の長さなどについてお話いただきました。

都城木材株式会社



会社の理念として「木の可能性を引き出して、人の暮らしを豊かにし、山を元気にする」「100年後の未来のために良い製材」とある通り、可能性を引き出す「製材」、「木材乾燥」、「木材の選定」、「品質・産地管理・表示」が行われています。実際に、工場の見学も行い木材が丁寧に扱われていました。

宮崎県  
木材利用技術  
センター



木の歴史や加工・特徴についてお話いただきました。また、センターの研究として、材料開発、木材加工開発、構成開発と3つに分かれて木材の研究がされており、ヨーロッパの技術CLTに並ぶMLTを開発中であることを聞き、生徒たちは、素材の良さを最大限に引き出す技術に関心を示していました。

ランバー  
宮崎



工場で行われているプレカット加工、保存処理、乾燥の加工について教えて頂きました。見学では外国産の機械で加工された木材を見たり、ロボットが作業する様子などを見せていただきました。

### 事後学習会

日時：令和2年11月10日(火)

企業参加者：(株)松岡林産 代表取締役 松岡 明彦氏  
ランバー宮崎協同組合 専務理事 川上 泉氏

9月に実施した見学ツアー先の企業の方を招いて、学びの発表と意見交換会を実施しました。



松岡 明彦氏



川上 泉氏

#### 各企業への質問（一部抜粋）

<松岡林産>

- ・会社の中で多い怪我は何ですか？ → 打撲が多い
- ・なぜ会社を立ち上げようと思ったのですか？  
→ 実家が製材所で山もあるが、都会から帰ってきたとき、機械化が進んでおらず、山を管理する人もいなかったため。
- ・伐採現場での1日のスケジュールを教えてください。  
→ 8時に出勤して10時と12時に休憩を取り16時に現場を出ている。

<ランバー宮崎協同組合>

- ・高校時代にしておかなければならない事は何ですか？  
→ 勉強と本を読むこと。本をたくさん読んでいる人には勝てない。差があると思う。
- ・この仕事をしていて良かったと感じるのはどういう時ですか？  
→ ここに頼んで良かったと言われること。



#### 生徒の感想（一部抜粋）

- ・4つの会社を見学させて頂いて、普段の実習では学べないことをたくさん知ることが出来ました。木の良さを改めて感じ、木を大切にしようと思うことも出来、木工などでの失敗をなるべく減らしていこうと思います。やりがいを持ち、仕事をしている人たちが凄くかっこよかったです。自分の考えをはっきり、しっかり持ち、就職に必要な知識を身につけていきたいです。
- ・伐採し植林することで、将来についても考えられている。森林サイクルは環境にも良いことだと思った。
- ・機械での加工は数ミリ単位で作業が行われており、さらに人間の手で大事に扱われていてとても感銘を受けた。自分たちが使う木材には色々な人たちの思いが詰まっているということが分かったので、木材に感謝しながら実習作業をしていきたい。
- ・職員の皆さん1人1人が楽しそうに仕事をなさっているのをみて、とても良い職場だなと思った。加工された木材すべてが綺麗にまとめられているのを見て、仕事を丁寧にしていることが分かった。
- ・普段の生活の中には、たくさんの木材が使われており、それには社員の皆さんの労力や努力が詰まっていることを改めて実感した。

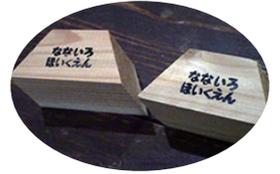


MOKU IKU

## 日向なないろこども園 木育教室

日時：令和2年10月17日(土) 9:00～11:00  
 場所：社会福祉法人ひなた会  
 日向なないろこども園（日向市）  
 講師：海野建設 代表 海野洋光氏

日向市で建設業を営む、海野建設の海野さんを講師に迎え、「磨け輝け大作戦！」として、粗削りのスギの積み木を親子で磨きました。園長先生の合格がもらえるまで、真剣に磨きました。園のスタンプは「合格」の証です(\*^^)v



### ● 参加した親子の感想 ● <一部抜粋>

- 毎日の育児に追われ、なかなか親子でゆっくりする時間がなかったので、今日は子どもとじっくり話をすることが出来ました。
- 積み木を磨くことでスギの心地よい香りが広がり癒されました。
- 環境にも配慮したおもちゃ作りで、とても良い取り組みだと思います。

## 生日幼稚園 木育教室

日時：令和2年10月22日(木) 10:00～11:00  
 場所：学校法人坂本学園幼保連携型認定こども園  
 生日幼稚園（宮崎市）  
 講師：田端 稔氏（木育サポーター）



生日幼稚園では、年長児を対象に一年を通じ木育プログラムを実施する予定です。今回は、「自分だけのトイハンマーを作ろう」ということで、道具の役割などを知り、道具への愛着心を育むプログラムを行いました。

園長先生のクイズ「木槌が出てくる昔話は何？」は答えられただけ、  
 「木槌を使った遊びは？」は、なかなか答えが出ませんでした。(^^; 自分だけの木槌を作る時は、自分が握りやすいように、懸命に磨いていました！みんなの木槌が出来た後、園長先生手作りの杭を打つおもちゃを使ってリレー。早速、自分の木槌の使い心地を確かめていた園児たちでした(^^)



できたよ～♪

### 木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやぎき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

みやぎき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会 事務局

宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやぎきスギ活用推進室

〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F TEL：0985 (27) 7682 / FAX：0985 (25) 2398

※木育かわら版の発行には「宮崎県森林環境税」が活用されています。

